

10.1.11 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 調査結果の概要

①人と自然との触れ合いの活動の場の状況

ア. 文献その他の資料調査

a. 調査の基本的な手法

「第3章 3.1 自然的状況 3.1.6景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (1) 景観の状況」に示した文献その他の資料整理により行った。

b. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲、並びに工事用資材等の搬出入に用いる車両が集中する主要な輸送経路及びその周辺とした。

c. 調査結果

対象事業実施区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の概要は、「第3章 3.1 自然的状況 3.1.6景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (1) 景観の状況」に示したとおりである。

②主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況

ア. 文献その他の資料調査

a. 調査の基本的な手法

「第3章 3.1 自然的状況 3.1.6景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (1) 景観の状況」に示した文献その他の資料整理により行った。

b. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲、並びに工事用資材等の搬出入に用いる車両が集中する主要な輸送経路及びその周辺とした。

c. 調査結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境の状況は、「第3章 3.1 自然的状況 3.1.6景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (1) 景観の状況」に示したとおりである。

イ. 現地調査

a. 調査の基本的な手法

三種町役場、自治会等へのヒアリング調査を行うことにより、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況、利用環境の状況を調査する。

b. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲、並びに工事用資材等の搬出入に用いる車両が集中する主要な輸送経路及びその周辺とした。

c. 調査地点

調査地点は表10. 1. 11-1及び図10. 1. 11-1に示す1地点とした。

表 10. 1. 11-1 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査地点の設定根拠

調査地点	設定根拠
釜谷浜海水浴場	対象事業実施区域の近傍に位置するため設定した。

d. 調査期間等

令和3年6月21日 釜谷自治会

令和3年6月24日 三種町役場



e. 調査結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係るヒアリングによる利用状況等の調査結果を表10.1.11-2に示す。

表 10.1.11-2 (1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査結果

調査項目	確認事項	調査結果（ご意見等）
事業との関連	事業の影響について	・ 工事に当たっては、事前に工事工程をご説明いただき、更に工事に関する周知看板等を設置していただきたい。また、車両の通行や重機の稼働台数が多くなる場合は、誘導員を配置するなど、利用者への配慮をお願いしたい。 ・ イベント開催時は利用者の増加が想定されることから、利用者のアクセスや建設機械の稼働による影響が考えられるため、周辺での工事を避けるなどの配慮をお願いしたい。
利用環境の状況	施設等の概要	・ 県内でも水のきれいな海水浴場として人気があり、平成18年5月には環境省が認定する『日本の快水浴場100選』に選ばれた。また、夕日の美しさからサンセットビーチ釜谷浜とも呼ばれている。 ・ 海水浴場だけでなく、無料のキャンプ場として人気がある。車で5分以内に温泉施設（砂丘温泉ゆめろん）や飲食店・スーパー等があり近隣施設も充実している。海開き期間中は砂像展示も行われているため、利用客は多い。 ・ 場内施設として、トイレ、炊事場、遊歩道がある。 ・ 周辺はクロマツの防風林があり、松林の森林浴も楽しむことができる。 ・ 三種型クアオルト（療養地・健康保養地）が推進されており、森林、温泉、気候等の豊かな自然を生かした健康増進事業に力を入れている。クアオルトには、八竜風力発電所の周辺を歩く風車コースもある。
	利用時期	・ 海開きの期間外では、春から秋にかけてキャンプやバーベキュー、海辺での休憩などで利用者がいる。釣り人も多く見る。 ・ 冬季は常設されたトイレも使用禁止になり、ほとんど利用客はいない。
	催事状況	【サンドクラフトinみたね】 ・ 例年7月の最終土・日に開催されており、観光客が数万人程度集まる一大イベントである。 ・ 砂像の作成、展示はもちろんのこと、各種芸能・スポーツ・食のイベントも行われ、環境の大切さをアピールしながら、子どもたちの夢と郷土愛を育むことを目的としている。 ・ 令和2年度の開催は中止となった。 【ダイワキスマスターズ】 ・ 釣り具メーカーにより全国で開催されており、毎年ではないが、釜谷浜海水浴場及びその周囲のサーフが会場として使用される年がある。 ・ 参加者は100人程度である。
	八竜風力発電所について	・ 八竜風力発電所は駐車場に既設風車が存在し、間近に見えるため多くの利用者が眺望対象としていると思う。観光資源の一つとなっている。 ・ 事業計画を見ると、新設風車は従来と同じように一直線に綺麗に並んでいることから、釜谷浜海水浴場からの眺めは既設発電所に引き続き観光名所になると期待している。 ・ 風力発電所を活用したグローバルウインドディの開催等に加え、新たなイベントや環境学習等も共同で考えていければと思う。 ・ 映画ディエンドナイトの舞台にもなった風車であり、長年ランドマークとして三種町住民に親しまれているので、建設にあたってこういった点も十分留意して事業を進めてもらいたい。

表 10.1.11-2 (2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査結果

調査項目	調査結果	
現地の状況		
	サンドクラフトイベントの様子①	サンドクラフトイベントの様子②
		
	キャンプの様子①	キャンプの様子②
		
	グローバルウインドフェスの様子	海水浴の様子
		
	クアオルト 風車コース	夕焼けの釜谷浜海水浴場

③交通量の状況

ア. 文献その他の資料調査

a. 調査の基本的な手法

「第3章 3.2 社会的状況 3.2.4 交通の状況」に示した文献その他の資料整理により行った。

b. 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲、並びに工事用資材等の搬出入に用いる車両が集中する主要な輸送経路及びその周辺とした。

c. 調査結果

交通の状況の調査結果は、「第3章 3.2 社会的状況 3.2.4 交通の状況」に示したとおりである。

イ. 現地調査

交通量の状況の現地調査結果は、「10.1.3 騒音 (1) 調査結果の概要 ③道路構造及び当該道路における交通量の状況」に示すとおりである。

(2) 予測及び評価の結果

①工事の実施

ア. 工事用資材等の搬出入

a. 環境保全措置

工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・工事に当たっては、事前に関係機関等に工事工程を説明して理解を得るとともに、工事に関する周知看板等を設置する。
- ・車両の通行が多くなる場合は、誘導員を配置するなど、配慮を行う。
- ・アクセスが集中するイベントの際は可能な限り工事を避けるとともに、ミキサー車の通行により工事関係車両の通行が増加する躯体コンクリートの打設は、海開き期間の連休や祝日等を可能な限り避ける計画とする。
- ・工事工程の調整等により可能な限り工事関係車両台数を平準化し、工事関係車両台数の低減に努める。
- ・工事関係者の通勤においては、乗り合いの促進により、工事関係車両台数の低減を図る。
- ・定期的に工程会議等を行い、環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底を行う。

b. 予測の結果

(ア) 予測の基本的な手法

環境保全措置を踏まえ、文献その他の資料調査及び現地調査に基づき、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用特性への影響の程度を定性的に予測した。

(イ) 予測地域

調査地域と同様とした。

(ウ) 予測地点

調査地点と同様とした。

(エ) 予測対象時期

工事用資材等の搬出入車両の走行に伴う影響が最大となる時期とした。

(オ) 予測結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートと工事関係車両のアクセスルートが一部重複することから、主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る影響が考えられる。ただし、工事に当たっては、工事工程の調整等による工事関係車両台数の平準化や乗り合いの促進により、工事関係車両台数の低減に努める計画である。また、工事関係車両の走行台数が最大となるのは、風車基礎のうち、躯体コンクリートの打設時を想定しているが、躯体コンクリートの打設は新設風車1基当たり1日～2日程度で行われるため一時的であること、海開き期間の連休や祝日等を可能な限り避けて実施する計画であることから、利用特性の変化は小さいと考えられる。さらに、事前に関係機関等に工事工程を説明して理解を得るとともに、利用者にも周知を行い、車両の通行が多くなる場合は、誘導員を配置するなど、配慮を行う計画であることから、工事用資材等の搬出入による影響は、事業者の実行可能な範囲内で低減されているものと予測する。

c. 評価の結果

(7) 環境影響の回避又は低減に係る評価

工事用資材等の搬出入に伴う交通量の増加が、主要な人と自然との触れ合いの活動の場に及ぼす影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・工事に当たっては、事前に関係機関等に工事工程を説明して理解を得るとともに、工事に関する周知看板等を設置する。
- ・車両の通行が多くなる場合は、誘導員を配置するなど、配慮を行う。
- ・アクセスが集中するイベントの際は可能な限り工事を避けるとともに、ミキサー車の通行により工事関係車両の通行が増加する躯体コンクリートの打設は、海開き期間の連休や祝日等を可能な限り避ける計画とする。
- ・工事工程の調整等により可能な限り工事関係車両台数を平準化し、工事関係車両台数の低減に努める。
- ・工事関係者の通勤においては、乗り合いの促進により、工事関係車両台数の低減を図る。
- ・定期的に工程会議等を行い、環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底を行う。

以上の環境保全措置を講じることから、工事用資材等の搬出入に伴う交通量の増加が、主要な人と自然との触れ合いの活動の場に及ぼす影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

イ. 建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響

a. 環境保全措置

建設機械の稼働及び造成等の施工による一時的な主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

(7) 建設機械の稼働

- ・工事に当たっては、事前に関係機関等に工事工程を説明して理解を得るとともに、工事に関する周知看板等を設置する。
- ・重機の稼働台数が多くなる場合は、誘導員を配置するなど、配慮を行う。
- ・利用者が増加するイベントの際は可能な限り工事を避けるとともに、工事を行う際は当該施設付近での建設機械の稼働を制限する等、配慮を行う。
- ・建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。
- ・建設機械の稼働台数が集中しないように工事工法及び工事工程に配慮する。
- ・作業待機時はアイドリングストップを徹底する。
- ・建設機械は適切に点検及び整備を行い、性能維持に努める。
- ・定期的に工程会議等を行い、環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底を行う。

(4) 造成等の施工による一時的な影響

- ・工事の実施に当たっては、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲の改変を最小限とするよう配慮する。

b. 予測の結果

(7) 予測の基本的な手法

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況を踏まえ、工事の実施に係る環境保全措置の内容を考慮して、利用特性への影響を予測した。

(4) 予測地域

調査地域と同様とした。

(7) 予測地点

調査地点と同様とした。

(4) 予測対象時期

工事の実施に伴う影響が最大となる時期とした。

(オ) 予測結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場が対象事業実施区域に隣接していることから、工事の実施に伴い、建設機械の稼働による影響及び造成等の施工による一時的な影響が考えられる。ただし、工事に当たっては、可能な限り低騒音型、低振動型の建設機械を使用する等により、工事の実施による影響の低減に努める計画である。また、工事の実施に当たっては、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲の改変を最小限とすること、事前に関係機関等に工事工程を説明して理解を得るとともに、利用者が増加するイベントの際は可能な限り工事を避け、工事を行う際は当該施設付近での建設機械の稼働を制限する等、配慮を行う計画であることから、建設機械の稼働及び造成等の施工による一時的な影響は、事業者の実行可能な範囲内で低減されているものと予測する。

c. 評価の結果

(7) 環境影響の回避又は低減に係る評価

建設機械の稼働及び造成等の施工による主要な人と自然との触れ合いの活動の場への一時的な影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

(a) 建設機械の稼働

- ・工事に当たっては、事前に関係機関等に工事工程を説明して理解を得るとともに、工事に関する周知看板等を設置する。
- ・重機の稼働台数が増える場合は、誘導員を配置するなど、配慮を行う。
- ・利用者が増加するイベントの際は可能な限り工事を避けるとともに、工事を行う際は当該施設付近での建設機械の稼働を制限する等、配慮を行う。
- ・建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。
- ・建設機械の稼働台数が集中しないように工事工法及び工事工程に配慮する。
- ・作業待機時はアイドリングストップを徹底する。
- ・建設機械は適切に点検及び整備を行い、性能維持に努める。
- ・定期的に工程会議等を行い、環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底を行う。

(b) 造成等の施工による一時的な影響

- ・工事の実施に当たっては、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲の改変を最小限とするよう配慮する。

以上の環境保全措置を講じることから、建設機械の稼働及び造成等の施工による主要な人と自然との触れ合いの活動の場への一時的な影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

②工作物の存在及び供用

ア. 地形改変及び施設の存在

a. 環境保全措置

地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・既設風力発電施設の造成地を最大限活用した造成計画を検討することにより、新たな土地の改変面積を最小限にとどめる。
- ・工事の実施に当たっては、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲の改変を最小限とするよう配慮する。
- ・風車は海岸線に沿って並ぶ既設八竜風力発電所の景観に倣い、原則一直線上に配置することで景観資源としての価値を損なわないよう配慮する。
- ・風車は周囲の環境になじみやすいような環境融和色に塗装する。

b. 予測の結果

(ア) 予測の基本的な手法

環境保全のために講じようとする措置を踏まえ、主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、分布及び利用環境の改変の程度を把握した上で、利用特性への影響を予測した。

(イ) 予測地域

調査地域と同様とした。

(ウ) 予測地点

調査地点と同様とした。

(エ) 予測対象時期

全ての風力発電施設が完成した時期とした。

(オ) 予測結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場が対象事業実施区域に隣接していることから、地形改変及び施設の存在が考えられる。また、既設八竜風力発電所は当該施設からの眺望対象の一つとされており、眺望景観の変化に伴う利用環境の変化が考えられる。ただし、工事の実施に当たっては、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲の改変を最小限とするよう配慮すること、新設風車は海岸線に沿って並ぶ既設八竜風力発電所の景観に倣い、原則一直線上に配置することで長年ランドマークとして親しまれてきた景観資源としての価値を損なわないよう配慮することから、当該施設からの観光資源としての価値も失わず、利用環境への影響は小さいと考えられる。また、周辺はクアオルト健康ウォーキングのコースとして認定されているが、土地の改変は風車周辺に限られること、クロマツ林の伐採は実施しないことを基本とすることから、これらの活動の場への影響もほとんど無いと考えられる。

以上より、地形改変及び施設の存在による影響は、事業者の実行可能な範囲内で低減されているものと予測する。

c. 評価の結果

(7) 環境影響の回避又は低減に係る評価

地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・既設風力発電施設の造成地を最大限活用した造成計画を検討することにより、新たな土地の改変面積を最小限にとどめる。
- ・工事の実施に当たっては、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲の改変を最小限とするよう配慮する。
- ・風車は海岸線に沿って並ぶ既設八竜風力発電所の景観に倣い、原則一直線上に配置することで景観資源としての価値を損なわないよう配慮する。
- ・風車は周囲の環境になじみやすいような環境融和色に塗装する。

以上の環境保全措置を講じることから、地形改変及び施設の存在による影響は、実行可能な範囲内で回避、又は低減が図られているものと評価する。